

一、松井さんの人がらがわかる言葉や文に線をその中から三つ選びましょう。

松井さんの人がらのわかる言葉や文

BBMの会員十名で考えてみました。まず松井さんの人がらが分かる言葉や文を三つずつ選んでもらいました。

・「風がもうひとふきすれば、車がひいてしまうわい。」 七名

・松井さんは車からでした。一名

・小さなぼうしをつかんで、ため息をついている松井さんの横を、三名

・「せっかくのえものがいなくなっていたら、この子は、どんなにがっかりするだろう。」 六名

・ちょっとした間、かたをすぼめてつつ立っていた松井さんは、一名

・運転席から取り出したのは、あの夏みかんです。 二名

・松井さんは、その夏みかんに白いぼうしをかぶせると、飛ばないように、石でつばをおさえました。 十名

深める発問について教材研究

松井さんの人柄が分かる言葉や文は、上のように七ヶ所あげられました。松井さんの人柄が分かる言葉や文と、そのことから分かったこと・思ったこと（その子なりの解釈）を発表して終わりませず、そのことを手掛かりにして学習を深めたいと思います。深める方向は、次のようなことを考えていきます。

- ① 表層的なイメージをより深める。
- ② 場面の中心イメージを学級全員のものとする。
- ③ 言語について、意味の進化や語彙の拡充を図る。文法について具体的場面で考える。

BBMで考えた深める発問の例

① 子どもが長い文を取り出してきた場合、その文の内、特に「中心となる言葉」はどれか問う。さらに、「なぜその言葉なのか」理由を尋ねる。同時に特定の子の課題とせず、全員の課題とすることが大切。この発問は、ほとんどすべての場合にあってはまる便利な発問です。さらに、たいていの場合、別紙の「イメージを深めるための発問の工夫」の「二」以下の深める発問へと発展させることができます。

② 大事な言葉を子どもの体験からイメージ化させる発問

「みなさんは、どんなときに『がっかり』したことがありますか。」「『ため息』にも使える発問」

← 子供の体験談

「みなさんががっかりと、この時の松井さんの気持ちでは、どんな違いがありますか。」

（松井さんは、出会ったこともない子供のがっかりする様子を心配している。つまり、自分のことでなく他人のことを心配している。）

③ 大事な語句と前の場面（語句）と関連付ける。

『夏みかん』は、どんな夏みかんだったのですか。」「いなかのおふくろの気持ちのこもった夏みかん。しかも、一番大きいのを車にのせている。」

「あの」と「その」をくらべれば、文法的な学習も可能になるが、一時間の時間配分上この深める発問にしぼる必要があるように思われる。

あの…①の場面を指す その…直前の文を指す